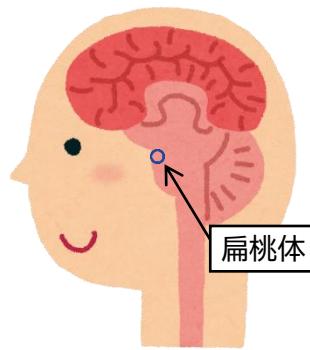


# じんけん通信

第2号  
(通算10号)  
2019年  
5月31日

【文責】  
人権・同和教育  
担当:長友伸二



## 脳は主語を理解できな?

5月中旬、人権教育の九州大会に参加しました。そこで、講演の際の余談がとても気になりました。それは「脳は主語を理解できない」。近年の脳科学はめざましいものがありますが、一体どうしたことなのでしょうか。

最終回、フルカウント、満塁。  
最初リードしていたものの、相手にじわりじわりと攻められ、1点差にまで追いつめられた。おまけに次の打者が、あの4番……俺は天を仰いだ。何度も何度も、こんなシーンなんかやつてくるはずがない。そう自分に言い聞かせていた。しかし、今そのシーンの中にいる。最大のピンチってやつだ。掌にどつと汗がにじんできた。

上のように、本を読んでいると、主人公に感情移入してしまいうことはありませんか? 「脳は主語を理解できない」とは、実は読書でも起きている現象だそうです。

脳には、さまざまな部位がありますが、新しい脳(新皮質)と古い脳(古皮質)に大きく分けられます。ここで「主語が理解できない」のは古い脳、大脑辺縁系と呼ばれる部位です。こ



では、なぜ、古い脳はそのような反応をするようになったのでしょうか。

先日、全米マスターズゴルフで優勝したタイガー・ウッズ選手は、ここ一番の大勝負の際、「対戦相手がうまくいきますよう」と祈るそうです。反対に、ライバルを褒めることが、自分を鼓舞することにつながる。それは、これまでスランプだった彼が身に付けた力でした。間もなく地区中総体、皆さんも試してみてはどうでしょうか。

(中野信子・ユカクマ「脳はなんでも気持ちいい」とをやめられないの?」他より)

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組/お名前

(ペンネームでもO.K.ですよ!)

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか? ( ○ · × )

2019年度第2号